

[03_02]九州大学大型計算機センター広報 : 3(2)

<https://doi.org/10.15017/1467967>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (2), pp.1-35, 1970-05-07. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

編 集 後 記

大変遅れてしまいましたが、広報Vol. 3, No.2をお届けします。

昨年3月以来仕事を続けてきた福岡市東薬院の仮設センターを引きはらい、ジェット機墜落事故現場から生まれかわった当センターに移転いたしました。移転の前後、利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、4月27日より利用者に対する業務を再開いたしました。すでに計算依頼などでセンターを利用されている方も多いたと思います、使いごちはいかがでしょうか。当初の計画（広報Vol. 1, No.1）では四階にあったプログラム相談室を二階に移しましたので、一般の利用者は二階だけでほとんどの用事をすませることができるようになっています。また利用者控室としての機能を充分にはたすためにデバッグ専用の穿孔機を二台備えたデバッグ室はジョブ数が多くなるほど有用なものになると思います。

今までは「仮設センターであるから」と利用者はがまんし、一方センターでは利用者に甘えていた向きもあると思います。使い勝手の悪いところや、もっと良い方法などご意見、ご希望をどしどし係までおよせください。センターを運営して行く上で利用者の「生の声」は非常に大きい力を持っています。

業務再開とともにプログラム相談室も当センターに移り利用者の相談に応じています。センターのプログラム相談室で相談にあたってくださる、いわゆるセンター付指導員の数が大変少なく、無理なスケジュールを組まざるを得ない状態で指導員の方々にはご迷惑をおかけしていることをお詫びいたします。プログラム相談はプログラム経験年数〇年以上といったベテランでなくても解決できるものがほとんどをしめています。3月末の指導員研修会の席上でも「プログラムがある程度書けるようになったら指導員として活躍した方が本人のためにもなる。」などの意見も多くでていました。指導員要項（Vol. 2, No.4）に指導員の特典について少々示してありますが、一般の利用者にとって計算機システムの最新ニュースを得ることができるのも大きな利点の一つではないでしょうか。我と思われの方はプログラム相談の係まで間合わせください。

現在計算機は順調に動いています。ほとんどのジョブが当日返却できていると思います。返却箱の中で混乱する恐れがありますので、できるだけ早くデックとリストを受けとってください。

（津田記）